



谷文晁《富士山図屏風》1835(天保6)年

# 対立と融和

19世紀の  
江戸画壇

2019 6/11 火 ▶ 7/15 月・祝

18世紀に諸派が興隆した江戸画壇では、19世紀になると、江戸狩野派、浮世絵という二大流派以外のスタイルは、谷文晁を核として収束していきます。江戸狩野派には狩野栄信・養信親子が現れ、さまざまな古典図様を組みあわせ、時代に合わせて表現を刷新した幕末狩野派様式を確立し、狩野派最後の光芒を放ちました。それに対し、18世紀末に自らのスタイルを確立した文晁は、江戸琳派の祖・酒井抱一とも交友し、幕末狩野派と競合する、19世紀の江戸画壇の中心的存在となりました。幕末狩野派と文晁一派の作品には、古典学習において相違点が認められる一方で、実景表現などにおいて共通点が見出されることが注目されます。また、文晁は、18世紀の江戸画壇では分化していた諸要素を取り込むことで、江戸画壇の主な特徴である、折衷的なスタイルを画壇全体に広げていきます。文晁一派の登場と浮世絵師の旺盛な活動によって、武家文化と庶民文化の領域の境目はなくなり、幕末狩野派様式の確立もあいまって、19世紀の江戸画壇は、百花繚乱の様相を呈したのです。

本展示では、以上のような状況を、幕末狩野派、文晁一派による、古典図様に基づき描かれた作例や実景を描いた作品を中心にご紹介し、円熟味を増す19世紀の江戸画壇の魅力をご覧ください。



福田半香《山水図》1850(嘉永3)年



狩野栄信《春秋山水花鳥図 春幅》

## フロアレクチャーのご案内

当館学芸員が展示室で作品について解説します。

6月23日(日) 14:00~

## ギャラリーツアーのご案内

当館ボランティアが対話形式で展示室の作品をご案内します(各回30分程度)。

6月15日(土) 13:30~(収)、14:30~(収)

7月 6日(土) 13:30~(R)、14:30~(収)

\* (R)はロタン館について、(収)は第7室収蔵品展についてのツアーです。それぞれの会場入口にお集まりください。(申込不要)